

# TPP協定承認案の強行採決 に抗議する委員長談話

本日、衆議院本会議において、TPP11協定の承認案が十分な審議がなされないまま強行採決されたことに断固抗議する。本道の重要農畜産物が犠牲となる協定は認められない。

TPP11協定は米国が抜けたにもかかわらず、TPP12枠（大麦・乳製品・砂糖）における米国分を除外されないばかりか、セーフガード（牛肉・豚肉）の発動基準数量も修正されていない。このように農業分野が数多くの問題を抱えるなかで、政府・与党が強行採決に踏み切ったことは断じて許されない。

また、協定発効によって環境・国土保全機能の低下や農業者をはじめ関連産業などで働く人々の雇用を失わせ、地域経済・社会にも甚大な影響を及ぼすことは必至である。さらには「食料安全保障」、「食料自給率向上」という国の責務を放棄し、国民に対しても説明責任を果していない。

よってわれわれは、国内農業を犠牲にする貿易交渉に断固反対し、国民の命と暮らし、北海道農業・農村地域が脅かされないよう運動を展開していく。

2018（平成30）年 5月18日

北海道農民連盟委員長 西原正行